

随

想

しなやかな 知性に向けて

「なんで将来に役にも立たないことを勉強しないといけないんですか?」という質問を学生から受けることがあります。そんな時、私は次のように返しています。「将来のことなんて誰にも分からないのに、何が役に立って何が役に立たないかをなんで今から判断できるの?」と。

当然のことですが、未来を予想はできても予知する能力を私たちは持ち合わせていません。なのでどのような知識や技能が役に立つのか、現時点では知りようがありません。しかし知りようがないから何もしなくていいわけではなく、知りようがないからこそ多様な方向に知的好奇心という名のアンテナを向けておくことが大切なんだと学生に伝えています。

事前にカリキュラムが決まっている高校までの学びとは異なり、大学での学びは自由です。自由度が高いために、自分はいったい何に興味があるのかと迷う学生は少なくありません。しかしその迷い

は同時に、新たな知識と視点を獲得する無限の可能性にも開かれています。それは、不確実性があります。高まるこれからの社会を生き抜く上で必須の「しなやかな知性」を育む好機でもあります。就職に結びつくような直線的な学びも大事ですが、一方で自分自身の生き方を豊かにするための曲線的な学びも大切にしながら大学生活を楽しんでもらいたいと考えています。

もともと、こうした学生に対する言葉は、教員である私自身に対する戒めの言葉でもあります。これまでの研究で得た古い知識に固執するのではなく、常に自分自身をアップデートしながら、これからも学生とともに成長していければと思っています。

